

弓矢ノ道ニ携リケル不當サニ、白晝ノワザナレバ、惡事千里ヲ走ル。此事世ニハ隱有ベカラズ、然ラバ何ノ面有テカ、憑タル人ニモ對面スベキ、○下略

〔駿臺雜話〕聖人の誠、是誠の感應にして、恩威智力の及ぶ所にあらず、是をもていふに、好事門を出ず、惡事千里を行と、世話にいへど、これ僻言なる也、好事惡事ともに、其實ある事の、いづれか千里にゆかざる事あるべき、惡事のみに限るべからず、

〔太閤記〕秀吉初て普請奉行の事

さらば割普請に沙汰し申さんとて、下奉行共と謀り、百間を十組に令割符、面々に宛しかば、翌日出來し腕木ごとくに松明をも掛置掃除以下きらく見へし折節、信長公御鷹野より歸らせ給ふて、御覽じもあへず御感有て、御褒美不淺、其晩に被召出、御扶持方加増有けるこそ、終を初に立る徵兆也と、後にぞ思ひ知れたる、

〔明良洪範十五〕大坂方ニテハ、神君ニ先ヲ越サレ、氣ヲ失ヒ、攻寄セン評議ハ忽チ止ミテ、却テ島津ヲ頼ミ、島津中ノ島ヘ行キテ、神君ヲ宥メ事濟ケル先ンズル時ハ人ヲ制ストハ、是等ノコトヲヤ云フナルベシ、

〔醒睡笑二謂被謂物之由來〕い。そ。が。ば。ま。は。れ。といふ事は、物毎にあるべき遠慮なり、宗長のよめる、武士のやばせの舟は早くともいそがばまはれ瀬多の長橋、○下略

〔關八州古戰錄十七〕笠懸山陣營事

此後秀吉公大神君ヲ招カレ、御同道ニテ高揚ノ地ヘ打出、小田原ノ城ヲ視下シ給ヒ、家康公ノ御手ヲ執テ、アレ見給ヘ、北條家ノ滅亡程有ベカラズ、氣味ノ克キ事ニテコソアレ、左アラバ關八州ハ貴客ニ進ラスベシト契約有テ、家康主モイザ小便ヲメサセトテ、敵城ノ方ヘ向ヒ、打連テ小便シ給ケリ、サレバ今ノ世マデモ、東國ノ兒女相謂テ、關東ノ連小便ト申ス事ハ、此吉兆ヲ傳ヘタリ、